

3 情報交換

○初参加の方のお話を聞きました。

ご夫婦ともに卵アレルギーがあるので注意はしていた。現在1歳と1か月だが、8か月の時にうどんをほんの少し食べたら、2時間足らずで、顔に湿疹が出現し、その後全身に広がった。呼吸は落ち着いていたが、顔の浮腫も出現し、アレルギー専門医のいる病院を受診。「アナフィラキシー」として点滴を受けて、次第に落ち着いた。アレルゲンチェックで、小麦・卵・乳のアレルギーと判明。乳児湿疹が顔にあったが、体には異状なくアトピー性皮膚炎とは考えていなかった。現在は、スキンケアの指導を受けてツルツルの肌になるように毎日保湿剤とステロイド軟膏を塗布している。特異的 IgE 値が高いので小麦・卵白は当分除去し、卵黄と乳は少しずつ摂取している。アレルギー対応の食材・料理は種類が少なくまた高価なものも多く、日々の食事に苦勞をしている。メンバーは皆、同じ経験をしておりウルウルしながら聞いていた。「あのスーパーには対応食品が豊富にある、このケーキ屋にはホールケーキだけでなくショートケーキもある、誕生日などに見栄えのするケーキを作っているところもある、どこそこの通販がおすすめ」などいろいろと情報交換できた。

○大規模校に通う子供さんの話を聞きました。

昨年まではアレルギー対応ができていた。今年は、新採用の先生が担任となり、アレルギー対応がきちんとしてもらえない。給食の誤配が続き、子供が指摘しないとわからない。新採用であるなら、管理職やベテランの先生の応援をもらい間違いのない対応が必要。ことが起きてからでは遅いのに、「そうならないと本気にならないのか!?」「校外学習では、対応します。」と言われても心配で弁当持参にしようかと思っている。アレルギー対応について、「私の常識は、学校では非常識なのか？」との思いを吐露され心が傷んだ。教育委員会で注意喚起しても、対応は現場に任されているので管理職がいかに危機意識を持っているか担任がどのように考えているかで対応が左右されると思った。

○救急救命について（頃末救急救命士より）

9月に宮崎市で子供の命を救ったニュースがあった。江南小学校で児童が教室で突然倒れ、心肺停止の状態になった。担任の先生が大声でまわりの先生たちを呼び集め、119番通報や心臓マッサージを行うとともにAEDを使ったところ児童はその場で意識を回復した。児童には心臓に持病があり、学校では発作が起きた時を想定してシミュレーション研修を行っていた。先生の連携も素晴らしいが、子供もインターフォンで職員室に連絡をし、速やかに他の教室に移動して待機と適切な行動が取れ、研修の成果が見られた。学校現場では最低年1回は救急対応の研修が必要であるが、その際食物アレルギーによるアナフィラキシーショックを想定してシミュレーション研修すれば一石二鳥かと思われた。



今回は、**令和3年1月17日（日）浅口市健康福祉センター**で開催します。情報交換の予定です。新型コロナウイルス感染症の状況により、中止するかもしれません。事前にホームページでの確認をお願いします。

（浅口医師会 高山 晴彦）